

令和6年度 みやぎの青少年意見募集事業 ～アンケート実施結果～

環境生活部共同参画社会推進課

目次

1. 概要

2. アンケート結果

1. 概要

【調査対象者】 県内の中学1年生～29歳の方

【調査期間】 令和6年7月12日～9月16日

【回答者】 90人

(内訳：中学生45人、高校生23人、大学生・院生15人、社会人7人)

【回答方法】 Webアンケート・紙のアンケート

1. 概要

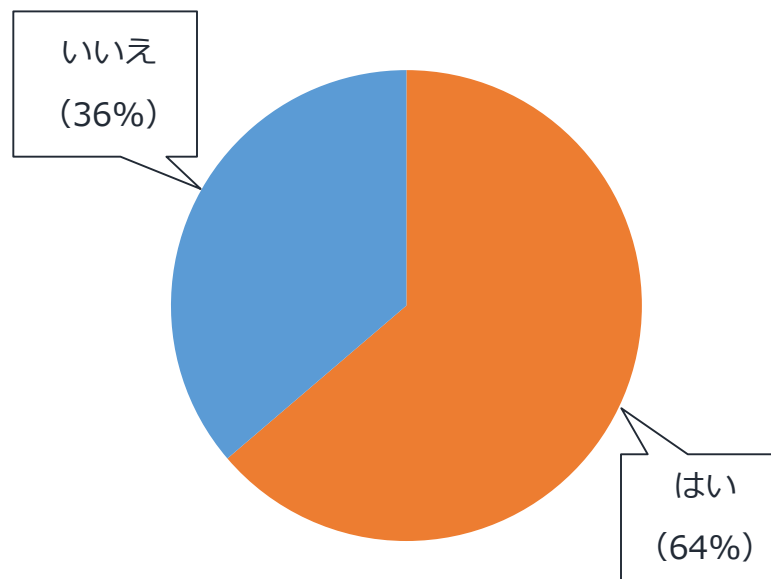
【テーマ】

- ① 若い世代の**投票率向上**に向けた取組について
- ② 「**こどもまんなか**」**社会**の実現に向けた取組について
- ③ 障害のある人もない人も**共生する社会**の実現について
- ④ 若い世代に対する「**第48回全国育樹祭**」の効果的な周知・参加促進について

2. アンケート結果

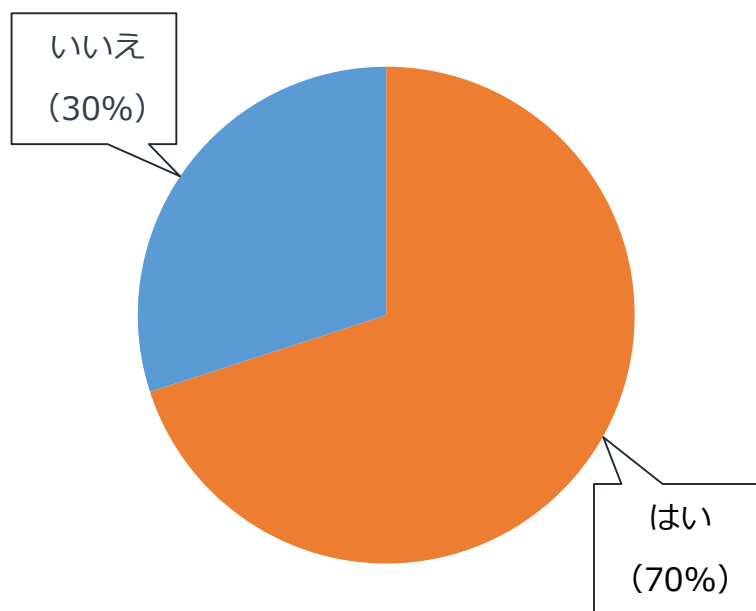
① 若い世代の投票率向上に向けた取組について (総務部市町村課)

設問 1 政治や選挙に興味・関心はあるか？ (回答数：80人)



2. アンケート結果

設問2 これまで選挙に行ったことがあるか。もしくは、選挙権を持ったら選挙の投票に行きたいと思うか。（回答数：80人）



「はい」と回答した理由（抜粋）

- ・少しでも政治に関わりたいから。
- ・良い社会を作る政治家を自分で選びたいから。
- ・投票することは国民の権利だから。

「いいえ」と回答した理由（抜粋）

- ・自分の投票に自信がなく、不安だから。
- ・まだ政治や選挙についてよく分からないから。
- ・面倒くさいから。

2. アンケート結果

設問3 若い世代の多くが選挙の投票に行かない理由は何だと思うか。（回答数：74人）

- ・政治や選挙についてよく分からないから。（21人）
- ・興味関心がないから。（17人）
- ・面倒くさいから。（16人）

設問4 どうしたら選挙の投票に行く若い世代が増えると思うか。もしくは、自分が選挙の投票に行きたいと思うか。（回答数：74人）

- ・スマホで投票できるようにする。（20人）
- ・特典がもらえるようにする。（9人）
- ・ショッピングセンターや学校等に投票所を設ける。（17人）

設問5：若い世代に選挙についての情報を効果的に発信するためにどのような工夫や取組をすればよいと思うか。（回答数：70人）

- ・SNSを積極的に活用する。（42人）
- ・テレビ等のマスメディアを活用する。（6人）
- ・学校と連携し、選挙について知る機会を作る。（15人）

2. アンケート結果

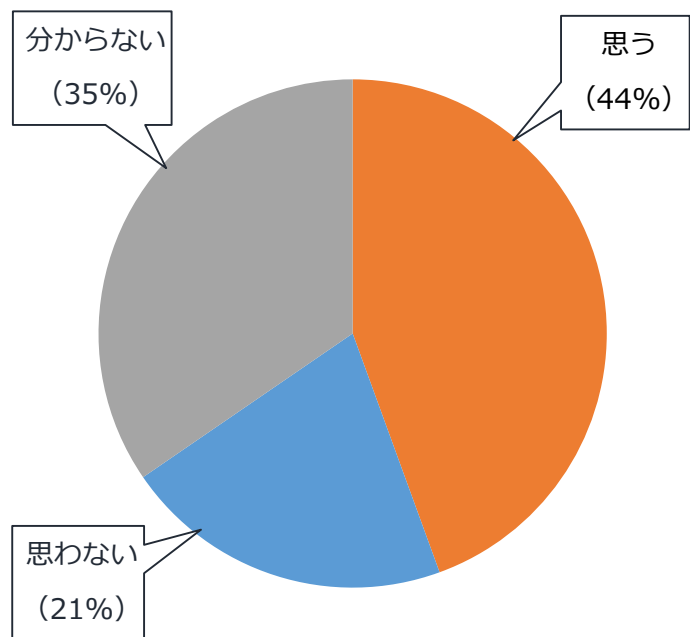
② 「こどもまんなか」社会の実現に向けた取組について (保健福祉部子育て社会推進課)

設問1 子育てについて、どのようなイメージを持っているか。(回答数：77人)

- ・大変そう。(45人) ・お金がかかりそう。(24人)
- ・楽しそう、幸せそう。(22人)
- ・自分の自由な時間がなくなりそう。(8人)

2. アンケート結果

設問2 宮城県はこどもが楽しく暮らせるところだと思うか。（回答数：81人）



「思う」と回答した理由（抜粋）

- ・水族館や動物園があるから。
- ・自然が豊かだから。
- ・たくさんの子育て支援があるから。

「思わない」と回答した理由（抜粋）

- ・他県に比べて、遊ぶところが少ないから。
- ・いじめや不登校が多いから。

「分からない」と回答した理由（抜粋）

- ・どんな子育て支援をしているのか分からないから。
- ・宮城県に住む子育て世代の親との関わりがないから。

2. アンケート結果

設問3 県が行っている子ども・子育て支援を若い世代に知ってもらうためには、どうすれば良いと思うか。（回答数：68人）

- ・ SNSを活用して情報を発信する。（24人）
- ・ ポスターやチラシ、パンフレット等を作成し、掲示・配布する。（17人）
- ・ ホームページに分かりやすくまとめる。（9人）

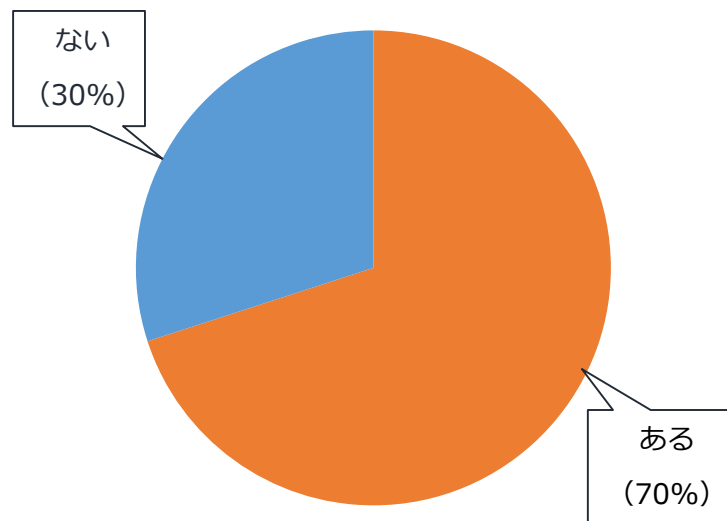
設問4 県の子ども・子育て支援には、若い世代の意見も取り入れていきたいと考えているが、どのような方法だと意見を伝えやすいか。（回答数：72人）

- ・ 学校、会社、オンライン等でアンケートを行う。（50人）
- ・ 学校、若者が集まる場所等でインタビューを行う。（10人）
- ・ 意見交換会や会議を行う。（4人）

2. アンケート結果

③ 障害のある人もない人も**共生する社会**の実現について (保健福祉部障害福祉課)

設問 1 これまでに障害のある人と交流したり、身近に障害のある人がいた経験はあるか。(回答数：80人)



2. アンケート結果

設問2 障害者差別解消の制度に関心が低い中高生等に制度を理解してもらうためには、どのような方法が効果的だと思いますか。（回答数：71人）

- ・講演会などを行う。（14人）
- ・障害のある人と交流する機会を設ける。（14人）
- ・SNSを活用して情報を発信する。（13人）
- ・学校の授業で取り上げる。（13人）

設問3 障害者差別解消の制度に関心が低い社会人に制度を理解してもらうためには、どのような方法が効果的だと思いますか。（回答数：63人）

- ・ポスターやチラシ、パンフレット等を作成し、掲示・配布する。（20人）
- ・企業で講演会や説明会、研修等を実施する。（9人）
- ・SNSを活用して情報を発信する。（7人）

2. アンケート結果

設問4 障害のある人とない人がお互いを知るきっかけづくりの場として、障害者アートを活用した取組などの交流イベントを行っているが、具体的にどのような内容であれば参加したいか。（回答数：64人）

- ・ ボッチャ等のスポーツ体験。（29人）
- ・ 障害の疑似体験。（4人）
- ・ 障害者アートの展示会や販売会、アート共同制作活動。（13人）

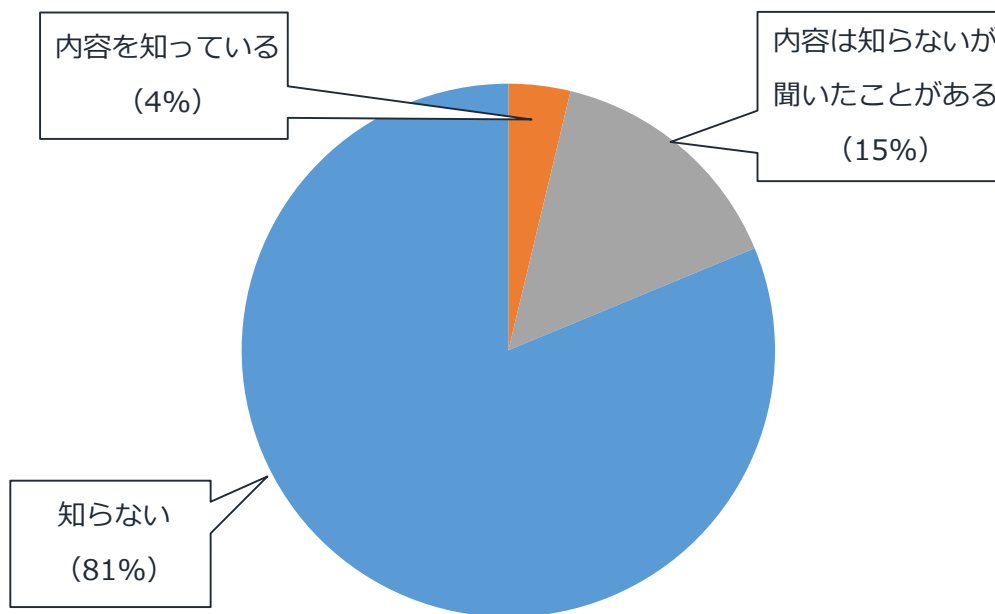
設問5 設問4のようなイベントのお知らせにはどのような方法が効果的だと思うか。（回答数：67人）

- ・ SNSを活用して情報を発信する。（46人）
- ・ テレビ・新聞等のマスメディアを活用して情報を発信する。（12人）
- ・ ポスターやチラシを作成し、掲示・配布する。（11人）

2. アンケート結果

④ 若い世代に対する「第48回全国育樹祭」の効果的な周知・参加促進について（水産林政部全国育樹祭推進室）

設問1 全国育樹祭を知っていますか。（回答数：80人）



2. アンケート結果

設問2 若い世代に育樹祭の開催を効果的に発信していくためには、どのようなことが必要だと思うか。（回答数：63人）

- ・ SNSを活用して情報を発信する。（31人）
- ・ 学校で特別授業等を行う。（23人）
- ・ ポスターやチラシ、パンフレット等を作成し、掲示・配布する。（6人）

設問3 事前に行う記念行事の中で、育樹祭の認知度や県民の意識を効果的に高めるためには、どのようなことが必要だと思うか。（回答数：57人）

- ・ ポスターやチラシ、パンフレットなどを作成し、掲示・配布する。（19人）
- ・ 育樹祭記念グッズを配布・販売する。（16人）
- ・ SNSを活用して情報を発信する。（6人）

2. アンケート結果

設問4 育樹祭の式典行事に多くの若い世代に参加してもらうには、どのような企画があると良いと思うか。（回答数：57人）

- ・有名人（宮城県にゆかりのある人、YouTuber等）によるイベント。（22人）
- ・映像技術やドローン等を活用したアトラクション。（11人）
- ・屋台やステージ、花火等のあるお祭りのようなイベント。（5人）

設問5 育樹祭を体験した若い世代は、体験する前と後で意識がどのように変わると思うか。（回答数：50人）

- ・森林を大切にし、次代につないでいこうという気持ちが芽生える。（17人）
- ・森林や育樹祭等の行事に対する関心が高まる。（8人）
- ・宮城県の自然やSDGsに向けた行動等について考えるきっかけになる。（5人）